

今月の聖句

『新しいぶどう酒は、
新しい革袋に入れるものだ。』
マタイによる福音書 第9章17節

◎5月の予定

- 7日(火) 避難訓練
- 9日(木) 心臓病検診(小1・中1)
校内研修会
- 10日(金) 春の遠足(小・中)
- 14日(火) 春の遠足予備日
- 16日(木) 耳鼻咽喉科検診
聖書教室
- 17日(金) 授業参観・保護者会
- 22日(水) 歯科検診・尿検査
- 23日(木) 教務委員会
- 26日(日) 私立小学校情報フェア(大船)
- 27日(月) 教育実習(小) 6月21日まで
理事会・評議員会
- 30日(木) 眼科検診
- 30日(木) 31日(金) 中間試験(中)
- 30日(木) 教職員協議会
- ◎6月の予定
- 2日(日) 私立小学校情報フェア(横浜)
- 4日(火) 尿検査(二次)
- 5日(水) 体験転入① 6日まで
内科検診
- 7日(金) 観劇(中)
- 11日(火) 音楽会
- 12日(水) 一斉引き渡し訓練



終わったあとは…

新体力テスト実施 4月23日(火)

小中全校児童生徒が23日大磯運動公園で、50m走・持久走(男子1500m女子1000m)・上体起こし・握力・立ち幅跳び・長座体前屈・ハンドボール投げ(小学生はソフトボール投げ)の各種目の正式な記録を測定しました。

◎今月の行事から ☆春の遠足 10日(金)

《小学校》

1・2年生 平塚総合公園

「緑のはらっぱ」でご飯を食べ、「わんぱく広場」でたくさん遊んできました。

ふれあい動物園で、小動物との触れ合い・ポニー乗馬も楽しみました。

3・4年生 小田原城址公園

三班に分かれて、公園内を散策しました。

ニッジャ館(4月20日にリニューアルオープン)に行くことを、楽しみにしていました。

みんな大満足だったようです。

5・6年生 上野動物園 旧岩崎邸

遠足の目的を、自分達で考え行動する遠足にしよう、事前に、各班で気をつけることや、行程を話し合いました。実りある遠足になりました。

《中学校》 石垣山一夜城歴史公園

今年も中学校の遠足は、約8キロのハイキング。縦割りの6班に分かれての活動です。まだ、慣れていない中1も、中2・中3のメンバーにサポートしてもらい、楽しく行っていくことができました。帰りは温泉で、サッパリして帰ってきました。

今年度の「ステパノだより」は、

紙面を刷新して、毎回特集を組み、本校の教育活動をお伝えします。また、教職員がそれぞれの学びを共有し、前進をめざす姿もご紹介できればと思います。

懐かしい友よりの手紙

学園長 小川 正 夫

ステパノだよりは毎月多くの方々にお読み頂いており、ご感想をお聞きしたり、お手紙でご意見や励ましの言葉を戴いたりしてとても心強く思っております。

四月号をお読み頂き、イースターを覚えてお葉書を下さった先生がおりました。キリスト教学校教育同盟加盟校で永く校長の重責を担っておられる方で、三十年來私が心から尊敬している教育者安積力也先生からで、常にお教え戴くことが沢山あり、ご紹介します。

『ステパノだより』楽しみに読ませていただいております。感謝です。四月号の先生のご文章で新元号「令和」を「平和へ導くとも読める」とのご指摘を読んで、ハツとするように、イザヤ書六〇章一七節の聖句がうかびました。

「わたしがあなたに与える命令は平和、あなたを支配するものは恵みの業。」です。

「戦争」ではなく「平和を命令」され、専政ではなく「神の恵みの業」の支配を約束される主。独立学園の卒業式で私が常に用いていた聖句です。私は意識的に元号を使わない者ですが、これを制定された方々の意図とは別に「令和」を「平和を命令」された時代と捉えようと思ひ定めました。澤田先生の戦争絶対反対のお心と共に小川先生の平和への不退転の意志を覚え感謝します。」とありました。

はがきの裏がわには内村鑑三先生のことば「読むべきものは聖書、学ぶべきものは天然為すべき事は労働」と書いてありました。

安積先生の言葉は常に奥行きが深く、選ぶべき道の迷いを解いてくれることが少なくありません。謙虚の心になることの楽しさに気づかれます。

語り掛ける一言が相手を幸せな想いにさせ、意欲を増し自信に目覚めさせることがあり、不用意な一言が相手を不愉快にさせ、失望させ、心に深い傷を残すことがある事はよく知られるところで、言葉遣いには注意が大事ですが、先ず、言葉は話すためというより、物事を学ぶため、意味を理解するために、正しく聴きとるためにあるとも言えます。

学生の頃、正しく自分の考えや思いを伝えるにはどうしたら良いかと質問したところ、教授は「君が大学に通っているのは、必ずある最も適切な言葉を探し出すためではないですか」と言われたことを思い出します。常に学び続けていくことで、聴く力が増していくということかもしれません。子ども達に大きな影響力を与え続けている教師には必要な姿勢ではないかと思ひます。

だいぶ前のことですが、関西で研修会の後、神戸国際大学の八代 智先生が「小川先生お疲れ様でした、これから『しゅに交わる会』にいきますが参加しませんか」と誘ってくれたことがあります。

その先生が、学生に送っていた印象的な言

葉がありました。

「書かれていない言葉を読みとる心、聞こえていない言葉を聞きとる心、目に見えていないものを見通す心の力を磨くことが大切です。」という言葉です。

今はAIの時代、物事や言葉のやり取りを簡潔に、意思の伝達は背景や過程はできるだけ省略し、結果や解答もキータッチで得られ、日常の言語は異なっている、誰もが理解できる絵文字、ユニバーサルデザインが普及しています。簡単明瞭で効率的、複雑な道案内や異言語間の通訳も、ポケットの中のナビやスマホが嫌がらずにすぐに対応してくれます。人は教育を受けることによってはじめて人間になると言いますが、教育産業の急速な進歩は、優れた教材や豊かな間接経験をさせてくれるので教師の経験的知識だけでは間に合わなくなります。欲しいものも家にいながらカード決済のネットですぐに手に入ります。それでも言葉は大切に、豊かに身に着けることが大事です。言葉が持つ美しい意味や奥行を学ぶことが大事です。

言葉を大事にし、豊かにすることは、自分の心を豊かに育み、大切なことに気づき、観えていないものを見、聞こえていない声を聴き、書かれていない背景の言葉を読むことができるのです。その力をつける第一歩は、聴きとる力を大切にするので、真実を見抜く力にもなります。

大きくなったら：

教諭 田中 圭史

先月の職員会において、校長からの話の中でいくつか心に留まる言葉がありました。「私たち教員は研修することによって教育することが出来る」。かつて（と言っても今ではかなり昔）は教員が経験したことを順に追って子どもたちが経験していったが、「現代は、大人も子どもも新しいことを同時に経験していくので、自分のキャパシティの中で教えるのは無理」である。そして、「学ぶことを忘れたら教師失格」だと。

耳の痛い話でした。人間は経験が長くなるほど経験に基づいて合理的に効率よく物事を進めていこうとします。しかしそれは時には非創造的・非生産的に陥ることがあります。だから私は、人間は元来怠け者だと思っている節があります。そこそこの結果が得られる方法があれば、それで十分だと思いがちです。かつて小学校の担任をしていた時に子どもたちに「大きくなったら何になりたいの?」「将来の夢は何?」と聞いたことがあります。ある子は就きたい職業について語り、またある子はやりたいことを語っていました。別の子は、どのように人生を送るかというような哲学的な回答を事も無げにし、舌を巻いたことがあります。いずれにしても、これらは彼らの自己実現（自己表現）の一つだといえます。様々な経験を通して自分自身の傾向

や好みを知り、自己の欲求とともに形成されていく。少ない知識ですが大雑把に書かせてもらえば、そういうことでしよう。

それでは、私たち大人は大きくなったら何になりたいでしょうか。

将来の夢はかなえてしまった人もいるかもしれませんが、道半ばの人もいるかもしれません。もうこの先、そんなものはないよという人も（もしかしたら）いるかもしれません。いえ、そうではなくて、人はすべて未来に向かって生きていく限り、自己実現を続けていくことが可能だということです。可能ではあるが、実践することが出来るのは自身が学ぶことによってです。学び続けることが栄養となり、原動力となり、私たちを前へと押し出してくれます。

本学園での取り組みの一つに、支援教育が挙げられます。様々な子どもたちを受け入れながら、彼らの成長を願い、取り組んでまいりました。「子どもたち一人ひとりが自分自身で将来をつかみ取ることができるよう。そしてそのために私たち教員がしっかりと支援をしていくように」とは、校長から繰り返し言われてきていることです。インクルーシブ教育を標榜することによって、さまざまな課題にも直面するようになりました。授業や教材の工夫、教授方法、教室の整備、子どもたちの把握：これらはもともと学校教育として取り組まれてきたことではありますが、「支援教育」という軸を差し込むことによって、新

しい側面を見せてきます。子どもへの声かけ一つにも、プリント一枚にも、支援教育のスピリットが満ちていなければなりません。私たちのこれまでの経験やスキルが万能ではなく、新しいものを取り入れることを求められてきました。現代は経験のある教員も若手の教員も新しい教育の場を同時に経験していくので、一緒になって学んでいかなければなりません。各々が研修会に参加し、研鑽を積み、新しい知識を持ち帰る。すでに得た知識をアップデートする。そのように共有しています。また、一年に数回の校内研修会が行われていますが、そこでは授業研究や子どもの対応などを具体的な事例をもとに話し合ってきました。昨年は、クラス単位で一人ひとりの実態を共有し、集団としての教育の取っ掛かりを複数の側面から検討することも始めました。現状を前向きにとらえ、可能性を見つけていくことはたやすいことではありません。成長は過去の自分を否定することもあります。しかし、共に働く者同士が知恵を出し合い、前進していくことができればいいなと希望しています。

ステパノの自己実現―それは構成する私たち一人ひとりが学び続けることを通して形作られるものであり、一人ひとりに課せられた責任です。個々のベクトルが合わさって大きなベクトルになり、それがステパノのはたらしを全うする力となる。そのように願い、自らを高めていきたいと思えます。

（研修企画委員長）

木の香りの新しい学び舎で

—新体育館棟の紹介—

木の温もりの中で

小学校教頭 長谷川 誠子

小学生の教室などがある小学校棟に引き続き、子どもたちの為の特別教室の他、職員室や事務室、相談室や資料室などが入っている体育館棟が完成しました。いろいろな部屋がある中、私たちの大切な働きの場の一つでもある職員室と事務室について紹介させていただきます。まず、玄関を入ると広いスペースがあり、そこで事務の受付がゆったりとできるようになりました。職員室と事務室は以前と同じように一つのフロアーの中にあります。しかし、部屋がだいぶ広くなりましたので、それぞれの機能が上手に働くようになりました。室内は檜などが使われた木造建築で、木の香りや温もりを感じる落ち着いた空間となっています。新しく揃えられた机や椅子の色合いも部屋の感じによくマッチしているように感じます。大きな窓は部屋を明るくし、子どもたちの登下校や休み時間の様子を見守ることに役立っています。また、物の収納ができる場所もたくさん作られており、今まで外に出ていたものがきちんと収納できるようになりました。その為、部屋全体がすっきりとし動線がよくなりました。設計の段階で、どこに何を置くか、どう取り付けるかなどもよく考えて頂いたからだだと思います。新しい場所は本当に気持ち良く、私たちに新たな力を与えてくれます。子どもたちと共に大きな夢や希望を持って、新しい歩みを始めたいと思います。このように素晴らしいものを与えて下さった神様に心から感謝します。

新体育館を使い始めて

教諭(体育科) 二挺木 健太

この度は皆様のお力で新しい環境を整えて頂き、感謝しております。また、体育館履きを各ご家庭で準備して頂いたり、学校では催し物をする際に使用するフロアシートを用意してもらいました。中学生は体育館のフロアに傷がつかないようにボールケースの下に布を敷くなど子ども達も大切に使うと考えてくれた事に驚きました。みんなが新しい体育館をキレイに使おうと協力してくれていることが非常に嬉しいです。

体育館で活動すると、キュツ、キュツと新しい体育館にフロアとシューズが擦れる気持ちのいい音が聞こえます。何気ない事かもしれませんが、前の体育館では考えられないことでした。良く滑る旧体育館のフロアは子ども達の最高のスライディング練習場でした。新体育館のフロアではしっかりとグリップが利き、踏ん張ったり、切り返したりと余計な心配をしないで思い切って体を動かせることが最高に気持ち良いです。また、広くなったことで以前は3対3で体育館内がいっぱいだったバスケットボールのゲーム練習も5対5が出来るようになりました。部活動や授業で、より充実した取り組みができると共に運動量も増えて、体力の向上も期待できます。

新体育館を使い始めてまだ一カ月ですが、日々使っていて運動の質が上がったと感じます。

今後は新たな競技の幅を広げて、バドミントンなどにも挑戦し、子ども達が数多くのスポーツに触れる機会を増やすと共に、一つひとつの運動の質をより高めていくことを目指していこうと考えています。

新音楽室

教諭（音楽科）

根田 栄子

小学校校舎建て替え工事に伴い音楽室が無くなり、キーボードを持って各教室を回って授業をした一年と、芸術棟一階の仮音楽室で過ごした二年、計三年を経て、この度待望の素敵な音楽室が与えられました。今回は、この紙面をお借りして、新しい音楽室をご紹介しますと思います。

体育館棟二階へと階段を上り、目の前に現れた戸を開けるとそこが、仮音楽室の二倍！七十平方メートルと広くなった音楽室です。十分な広さのおかげで、グランドピアノを入れていただくことができました。机は旧音楽室から引き続き、二人掛け机を利用しますが、椅子は階下の職員室に音が響きにくい物を新調しました。サイズ選びにあたっては、既存の机に合わせるだけでなく、小学生も座りやすい座面の高さに配慮しました。

二十名分の机を置いてもお余る後方のスペースでは、楽器を並べて合奏の練習もできるようにしたい！と考えていただけでしたが、実際に授業をしてみると、音楽会練習の他、グループ学習時にも、広いスペースを使つてのびのびと学習することができており、工夫次第でまだまだ使える素敵な空間になりそうです。

また、後方の壁一面に、オーダーメイドの棚を作り付けていただきました。大小様々な楽器や、極小型の楽器を入れるかごのサイズにピッタリ合わせていただいたおかげで、今まで『出しっ放し』状態だったドラムセットやマリリンバも含め、すっきりと収納することができました。

数々の無理難題を快く解決して下さった菅家工務店の皆様はじめ、ご寄付、御加勢下さったすべての方々に感謝し、この木の香り豊かな音楽室を末永く大切に使用していきたいと思ひます。

本があふれて呼びかけてくる場所に

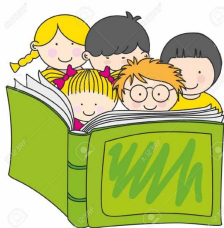
学校図書館司書

平野 朋子

「今、話題になっている人気本、本屋さんで見ただけ小学生向きではないから読んでみたいけれど無理かな」という小学5・6年生。「難しい漢字がいっぱいで字ばかりの本は苦手だけれど、小学生の頃に読んでいたあのシリーズは面白かったな」という中学生。こんな小中学生のニーズに応える蔵書が整備され、多くの児童生徒の願いに応じることができるよう図書室を目指します。

まず、館内配置図を入口に掲示し、書架に案内表示を取り付けます。そして自分が読みたい本や課題のテーマに関連した本を探し当てることができるようにします。小中学校の資料を共有していることで色々な角度から書かれた本を手にするができるため、自分ではたどり着けなかった視点に気づいたり、必要な情報を得る方法を知りその情報を取捨選択する力を身につけることができるれば、子ども達のこれからの人生の様々な場面で役立つのではないかと思います。

本に対して苦手意識を持つている児童生徒にも、居心地の良い公共的な場所だと思ってもらえるように、心の安らぎと精神的な支援を与えることができるように、利用者同士のつながりを大切にしながら、子ども達と共に学び、育っていく図書室をつくっていききたいと思ひます。



「小学校」

新六年生が新一年生にインタビュをしました。その時の様子を「一年生とのこと」と題して、作文に書きました。

一年生の教室に入ってみたら、すごくなごやかで、みんなちゃんとイスにすわっています。私は、R君という、いつも礼はいの場所にいくときのパートナーにインタビュをしました。いつもやんちゃなR君なんです。きちゃんとインタビュに答えてくれたので、よかったです。一年生全員かわいくて明るいクラスでした。私は、一年生と礼はいにいくのをいつも楽しみにまわっていて、お話ししている時はとってもしあわせです。(MO)

六年生みんなで、一年生の教室に行きました。O君とぼくは、U君にインタビュをしました。U君は電車が好きそうだったので、「電車好き?」

と聞いたら、元気よく、「うん!」

と答えてくれました。(AS)



一年生の教室に入った時、元気な声が聞こえて心がホッとした。パートナーはT君。T君は、おとなしくて、Y君と仲がいい。一年生は、小学校のさいしう学年だから、教えることがいっぱいで大変だけど、教えることで相手がどんな子かを知れるので楽しみです。これからも、元気なクラスになってほしいです。(AM)



私の相手(パートナー)は、YS君。やる前は、自分にできるかなって思っていたが、実さいはやさしくできました。歩くのは、きよくたんにゆっくりだが、走ると逆に速いです。帰りの七曲りでは、階段がこわいようで、ゆっくり行きました。いちごが好きなようです。学校で楽しみなことは、休み時間だそうです。ふだん見ていないのでわかりませんが、休み時間はどのように過ごしているのでしょうか。(FK)

自分のペアのAS君と、もっと仲良くなりたい。こんどA君のすきなおにごっこをしたい。(KS)

*一年生は毎朝、礼拝の場所まで、パートナーの六年生に手をつないで連れていってもらっています。

新四年生が三年生の時に、学園の環境や生活を綴った「ステパノかるた」を作りました。次号からも、順に紹介していきたいと思います。



アオバトが
やすんでいくよ
岩崎山

富士山は
岩崎山から
よく見える



校内の岩崎山から撮影した富士山

「中学校」

入学から一ヶ月。二十人の一年生に、中学校生活の感想を聞いてみました。

質問1 へ中学校の生活には慣れましたか？

約7割の人の答えは「はい」「慣れました。」です。「少し慣れたと思います。」「もう少しで慣れそうです。」という人も。「まだ慣れていません。」という答えも少数ありました。

質問2 へ中学生になって、びっくりしたこと、意外だったことは？

「中学生はこんなに忙しいんだ!」「山の階段が疲れる。」「女子から話しかけられた。」「お道具箱がいらないことにびっくり。」「かわいいですね。」「中庭で給食を食べること。」「海に行ったこと。」「生徒総会で、中学生全員で意見を出し合って目標を決めたことにびっくりしました。」

質問3 へ中2、中3の先輩たちを見て感じたことは？

「しっかりしてるな。」「色々なことを自分で考えている。」「てきぱき動いていてすごい。」「みんな積極的に行動していてすごい。」「新入生歓迎会を先輩たちが一生懸命にやってくれて、とても嬉しかったです。」「ものすごく笑顔で中学校生活を楽しんでいる。」「よく見えます。あとは…「優しい。」「とても優しい先輩たちです。」多数ありました。

質問4 へこれからどんな中学生になりたいですか？

「勉強と部活をがんばりたい。両立させたい。」「勉強ができる中学生になりたい。」「勉強ができて、友達と仲良くする中学生。」「賢い中学生。」「勉強ができてやさしい人。」「やはり勉強のことはかなり意識しているようです。さらに、「明るく元気な中学生。」「自分の意見を言える中学生。」「友達と仲良くなれる中学生。」「仲間と協力し、ゆずり合える中学生。」「人とたくさん話せるようになりたい。」「忘れ物をしない、人を楽しませられる中学生。」「いろいろな人と仲良くしたり、勉強もちゃんとできる中学生。」「優しさのある中学生になりたいです。」「自分のことだけでなく、周りの人との関係にも心を向けていますね。そして、「下の学年に優しくできる中学生になりたい。」「先輩みたいに積極的に行動したり、後輩に優しくしたりすることのできる中学生になりたいです。」「今いる先輩たちのような中学生になりたいです。」「今の先輩たちみたいな中学生になりたいです。」「わずか一ヶ月の関わりの中でも、二年生、三年生の姿は、強く印象付けられたようです。明るく前向きな、希望に満ちた良いスタートが切れました。がんばれ、中学一年生!



連載「ステパノ散歩」―私の好きな場所―

学園内の紹介を、中学生にお願いしました。

技術家庭科室・お蔵

中学校の中庭から続く階段を下ると、白い壁と緑色の柱が印象的な、技術家庭科室が現れます。周りを背の高い木々に囲まれて、中庭の階段から家庭科室の入口までの道には、正方形の平たい石が並べられています。それからすべての風景は、まるで印象派の画家が描いたように風情があつて、私はその風景を鑑賞することがとても好きでした。

しかし、その風景の中に、一つ気になるものがあります。それは、技術家庭科室の正面から見て右側にある、黒みがかった茶色の蔵で、大きい割には普段使われている様子がありません。先生にこの蔵についてうかがったところ、これはこの土地の持主が、まだ、澤田美喜先生のご実家、岩崎さんだった頃からあるそうです。なるほど、ずいぶん古いんだなと私は思いながら、蔵の中はどうなっている、何が入っているのだろうか、想像するのです。

中三 AM

次号もお楽しみに。





潜伏キリシタンの遺物が語りかけること (一)

澤田美喜記念館に収められている信仰画が一五九二年の安土桃山時代のものでたとえ報じられたのは記憶に新しい出来事です。記念館を訪ね西田恵子館長にお話を伺いました。

信仰画の名前は「ご聖体の連祷と黙想の図」。和紙十二枚をつなげた横三百二十センチ縦二十二センチの卷子(巻物)です。特筆すべきは作風が日本的であること。もう一つは一本の巻物にマリアとイエスの生涯を描いた絵と、連祷という祈りの言葉の両方が入っていることだそうです。墨で描かれたイエスは袴姿です。「当時の偉い人は袴をはいていたからでしょう。西洋人のいでたちを見たこと



がない絵師が、想像で描いたのでしょうね。」と西田館長。また「復活」の場面の人物は、戦国時代の流儀で腰に刀を差しています。江戸時代に西洋画を学んだ絵師が描いた色彩豊かな信仰画と比べると、とても素朴で庶民的な感じがしました。

連祷とは、先唱者に続いて信者が交互に唱えるお祈りの式文だそうです。「きりえれいそんきりしてれいそん・・・」と、ラテン語の祈りの言葉が原語に忠実に仮名文字で書きとめられ、五十行ほど続きます。

一五九〇年頃はキリスト教が爆発的に広まって教本が足りなかったのだそうです。豊臣秀吉のバテレン追放令は一五八七年。信仰画の前で人々はどのような思いで祈りを捧げたのでしょうか。

最後に記されたパウロという洗礼名から、イエズス会の日本人修道士「良印パウロ」という人物が作ったことも明らかになりました。良印は高山右近とともに国外追放になり、フィリピンで亡くなりました。澤田先生は信仰画を長崎県の生月島(いきつきしま)の夫婦から預かったとのことですが、一体どんな人々の手を経て澤田先生のもとにたどり着いたのでしょうか。今後の調査が待たれます。

(次号に続く)



STEPHEN'S NEWS

【表彰】

○漢字能力検定 八級合格

小三 N・I

○平塚市図書館設置70周年記念

中三 Y・N

○佐川美術館第10回

こども絵画コンクール(平成30年度)

小学校高学年の部 優秀賞

中一 Y・F

【着任者の紹介】

養護教諭として、土橋久美子先生が着任されました。

【編集後記】

五月一日より、元号が平成から令和に変わりました。今、聖ステパノ学園内に新たに出来上がった体育館棟に子どもたちの声が響きわたっています。装いも新たになった「ステパノだより」を五月のそよ風と一緒にお届け致します。(ひ)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一九年五月十四日(火) 発行 第232号